

三重県文化審議会からの答申 概要

日時 平成20年2月4日(月) 11:30から12:00

会場 三重県庁 3階 知事室プレゼンテーションルーム

1 要旨

平成20年2月4日午前、知事室プレゼンテーションルームにおいて、三重県文化審議会から知事へ答申が行われ、引き続いて、懇談の時間がもたれました。

2 出席者

- ・文化審議会 武村 泰男(会長)
中林 博(副会長)
田部眞樹子(文化振興拠点部会長)
今井 正次(新博物館のあり方部会長)
- ・県 知事、生活部長
- ・報道 8社 (NHK、三重テレビ、伊勢・朝日・毎日・中日・読売・建通新聞)

3 内容

- (1) 審議会の経過説明
- (2) 答申
- (3) 懇談(懇談後、知事は退席)
- (4) 文化審議会と報道関係者との質疑応答

4 懇談時の主な内容

<委員>

- ・新しい博物館については、今度こそ建てていただきたい。建てた以上は、人材育成に力を入れていただきたい。また、維持管理についても重要なことなので、よろしく願いしたい。

<知事>

- ・産業政策を進めることは重要であるが、三重の未来に向けて県全体を見渡した時に、三重県人としての生き様の未来像を考えていく中で、広い意味での文化、三重県人としての生き方をどう展開できるようにしていくかが大切である。その舞台づくりの根幹として、文化振興や新博物館については、産業政策以上に、もっと根幹的な大事なことだと思う。
- ・財政事情は非常に厳しいが、未来づくりを考えていく上で欠かせないことであり、公共事業などの議論とは、違うものであると思う。苦労はあるが、その苦労は、未来に必ず生きてくると思う。

- ・今回、短期間に相当な頻度で、審議をしていただいたことに感謝する。県として答申を真摯に受け止め、県の文化振興方針、新博物館の基本構想を早急に取りまとめ、議会や県民とも議論を進めていきたい。
- ・今後の議論の中で、引き続き貴重なご意見を頂戴したい。

< 委員 >

- ・今回、知の拠点の整備の中で、過去の経緯も踏まえながら博物館の整備を進めてきた。検討の中で、理系（自然系）の人が少ないという意見があったが、今回は、総合的に検討してきて、かなりまとまったものができた。
- ・博物館については、イニシャルコストもかかるが、ランニングコストも大切なことであるので、このことも含めて、ぜひ深く考えていただきたい。
- ・博物館については、三重県民のためになるし三重県のアイデンティティづくりにもなるということで、博物館活動を継続的に発展させることに重点をおいて検討した。作って終わりではなく、継続的に活動していくためにどうしたらいいかということについて、県民との協働の仕方等に関して、基本計画等で検討していただきたい。
- ・どういうふうに知の拠点づくりができるか、ということを考えてきた。これからのいろんな形で県民の力になっていくと考えている。博物館が、大きな拠点づくりの一翼を担いながらできていけばいいと思う。どういう拠点を身近に作りながら、県の広い意味での文化度を高めていくかということが一番考えてきた。

< 知事 >

- ・「三重の文化振興方針（仮称）」、「新博物館のあり方について」は、必要なことを網羅できていると思う。新しい文化振興策という観点、これからの未来型の博物館のあり方について、県議会でも議論いただいたが、審議会では、その議論をさらに深めたものを提示していただいたと思う。県民の今後の生き様について、「文化力」を高めていく知の拠点としてしっかり機能していくようにしたい。そのやり方は、県民とともにしっかりやっていく、いわゆるガバナンス、「新しい時代の公」として県政を展開していきたい。知の拠点づくりとして、今回は、その模範・モデルとなるものと思う。
- ・新しい博物館については、未来に対する子どもたちへの投資であり、財政的には頭の痛いことだが、さぼることはできない、許されないことであり、努力してやっていきたい。